

南極資料投稿の手引 (抜粋)

I. 投稿規定

1. 本誌は南極地域観測隊の観測成果、南極観測資料を使用した研究成果、南極観測事業に関係ある研究成果を中心とし、北極を含めた極地に関する諸研究成果を掲載するもので、速報的な面が重視される。また、公式記録になりうる記事も含まれる。投稿原稿の種別は、研究論文 (scientific paper)、研究ノート (scientific note)、レビュー (review)、報告 (report)、シンポジウム/会合報告 (symposium / meeting report)、ニュース (news) とする。
2. 投稿者は投稿規定に従って作成した原稿1部とそのコピー1部 (研究論文の場合は2部) を、所定の投稿票と共に、編集委員会 (〒173-8515 東京都板橋区加賀 1-9-10、国立極地研究所、電話 03-3962-2214, Fax 03-3962-2225, e-mail: publication@nipr.ac.jp) 宛提出する。到着の日をもって受付日とする。編集委員会は年3回 (5, 9, 1月頃) 開催される。南極資料投稿の手引および投稿票は、国立極地研究所図書室に請求できる。なお、ワードプロセッサ等で原稿を作成した場合は論文校閲を終えた最終原稿のフロッピーディスクを上記宛提出する。
3. 原稿は、研究論文については2名、その他については1名の校閲者によって校閲される。校閲者は著者に原稿の修正を求めることがある。
4. 原稿の採否、論文の種別、掲載の順序は、編集委員会が決定する。
5. 初校は著者の責任において行う。その後の校正は図書室で行う。著者は本人が不在の場合でも校正が遅れることのないようあらかじめ手配する。
6. 別刷は1論文につき50部まで著者に贈呈する。

II. 投稿細則 (執筆要領)

1. 使用言語は日本語か英語のいずれかに限る。
2. 論文には原則として長さの制限は設けませんが、明確さを失わない範囲で、できるだけ簡潔に書かなければならない。
3. ワードプロセッサ等の機器により原稿を作成する場合は、和文、英文原稿ともにA4版の用紙の横書きとし、ダブルスペースでタイプする。各ページは上下約3 cm、左右2.5 cmほどの余白を残す。和文は1行40字、現代かなづかい、当用漢字を用いる。英文は行末揃えはしない。原稿はオリジナルを提出する。
手書き和文原稿は400字詰原稿用紙 (A4版、縦型、横書き) に、ペンまたはボールペンで書く (鉛筆は不可)。
7. 要旨 (abstract) の長さは原則として英文は200語以内、和文は400字以内とする。和文論文、英文論文、どちらにも和文要旨および英文 abstract をつける。
9. 数字はアラビア数字を用いる。単位は原則として国際単位系 SI units (System International d'Unites) に従う。
11. 数式は以下の例に従う。ことに文中に式を挿入する場合は、朱書きでイタリックの指定をする。(例: $\underline{a/b}$, $\exp(\underline{t/T})$). 数式は一般にイタリックで組むから、特に立体とすべき文字、記号には朱書きで指定する。独立した数式は一行につき本文の二、三行の余白をとって書くこと。数式のあとには原則としてコンマ、ピリオドをつける。数式を本文中に引用する場合は、式 (1) (和文), eq. (1) (英文) とする。

例

$$\cot \xi = \tan \alpha + \frac{u}{f} s^2 \alpha. \quad (4)$$

$$f \equiv w + u \tan \alpha \varpi_{\alpha}. \quad (5)$$

12. わが国が決めた南極地名は、南極地名委員会で決定された表記に従う。
参考：南極地名委員会報告、南極資料、Vol. 33, No. 1, 99-111 (1989. 3)
13. 表は必ず別紙を用い、表 1、表 2; Table 1, Table 2 等をつける。和文論文の場合は、和文説明および英文説明、英文論文の場合は英文説明を表の上につける。用紙 1 枚につき 1 表とし、用紙の大きさは原則として本文と同じ大きさ (A4 判) とする。用紙の右下に著者名を記す。
14. 図は鮮明に墨書き、または墨色で鮮明にプリント出力したもの。図には必ず説明をつける。和文論文の場合は和文および英文を併記し、英文論文の場合は英文で書き、「図の説明 (Figure captions)」として別紙にまとめる (本文とは別にページ数を入れる)。図には写真も含めて通し番号 (図 1, 図 2; Fig. 1, Fig. 2 等) をつける。図右下に図番号と著者名を記す。
15. 写真は白黒を原則とし、図に準じて取り扱う。原稿と同じ大きさの台紙 (A4 判) にはり、台紙右下に図番号と著者名を記す。
16. 図 (写真を含む) の縮尺、およびアート紙、カラー写真の使用に関してを希望のある場合は、あらかじめ指定する。ただし決定は編集委員会が行う。
17. 表、図 (写真を含む) を本文中に引用する場合は、表 1, Table 2, 図 3, Fig. 4 等とし、挿入場所を、本文原稿の右側余白に鉛筆で指定する。
18. 脚柱はなるべく使用しない。やむをえず使用する場合は、*印 (asterisk) をつけ、本文中そのすぐ下に横線ではさんで記入し、「脚柱」と朱書きする。
19. 文献は本文の最後に、単著または二人の著者の場合は以下のように著者のアルファベット順に並べる。同著者および 3 人以上の共著者は年号順に並べ、同年の場合は年号の次に a, b をつけて区別する。
記載の順序は次のようにする。
雑誌の 1 記事を参照の場合
著者名 (年号): 論文の表題, 誌名, 巻数 (号数, 毎号頁数の改まるもののみ必要),
はじめの頁—おわりの頁
図書 1 冊を参照の場合
著者名 (年号): 書名, 版表示, 出版地, 出版者, 総頁数 (シリーズ名のある場合は記載),
図書 1 章または一部を参照の場合
著者名 (年号): 論文の表題, 書名, 編者, 版表示, 出版地, 出版者, はじめの頁—おわりの頁 (シリーズ名のある場合は記載)。
20. 文献を本文中に引用する場合は、“Budd (1962)”, “宮本 (1990)”, “(Griffiths and King, 1965; Tickell, 1968a, b)”, “小田巻・倉本 (1989)”, 著者が 3 人以上は “Delmas et al. (1982)”, “Austin et al., 1986”, “阿部ら (1993)” とする。
21. ロシア語の文献は、ロシア文字を直接用いず英訳を記入し (in Russian) とする。原文に英訳がない場合はローマ字になおし記入する。
22. 和文論文を英文論文に引用する場合、英訳を記入し (in Japanese) または (in Japanese with English abstract) とする。原文に英訳がない場合はローマ字になおし記入する。
23. 和文誌名を英文論文に引用する場合、和文誌名は原則としてローマ字でしるし、英文誌名をもつものは、必要であればカッコでつつんでローマ字誌名のあとに付記する。
24. 誌名の省略法は ISO (International Organization for Standardization) の勧告に従う。(World List of Scientific Periodicals, London, Butterworths や Bibliographic Editors and Authors, Washington, D.C., American Chemical Society の最新版を参照)。勝手な省略をせず不明なものは全部書き出す。
25. 未発表論文を文献として引用することは避ける。やむをえず引用する時は、本文中に「私信」、あるいは “private communication” または “personal communication” として入れる。